

開所40年記念特別展 遺跡保護のあゆみ

—富山県40年間の発掘調査で解き明か
されてきた歴史の数々—

とっておき埋文講座①

平成29年10月6日(金)～平成30年3月22日(木)

はじめに

当センターは昭和52年1月に設置され、4月の開所から40年が経過しました。この間多くの遺跡を調査してきましたが、調査の成果が十分に県民に紹介されているとはいえません。そこで、40年を契機に発掘調査などを手掛ける専門職員「文化財保護主事」の業務について焦点をあてることとしました。

なお、40年間に調査した件数は本調査や試掘調査を併せ1,521件で調査面積の総計は225万4千m²にものぼります。この展覧会では、

これらの調査がどのような契機で行われたかを振り返るとともに、調査の成果からどのようなことが明らかとなったかなどを展示するものとしました。

展示室に発掘調査現場を再現！

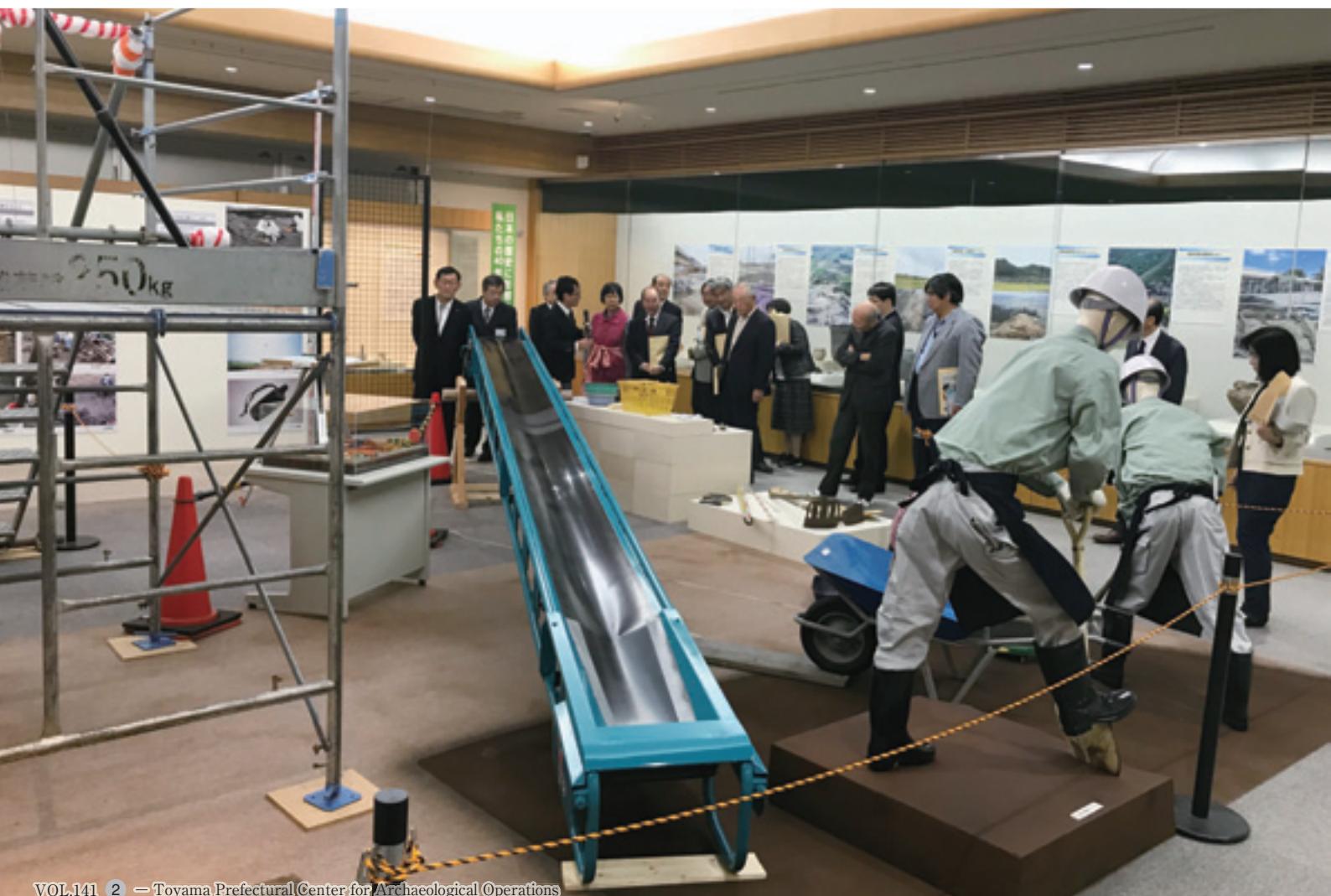
展示室中央には遺跡の発掘調査現場を再現しました。中央にベルトコンベアを1基配置し、その左右に作業員さんが土を掘削する様子を表現しました。スコップを用いて行なう「包含層掘削」、ジョレンを用いる「遺構精査」、最後に遺構そのものを掘削する「遺構掘削」といっ



40年間の調査遺跡



年表とジオラマ





こんな施設の下に遺跡が

た一連の作業のほか、一輪車やスコップなどのほか調査に用いるビニール袋や荷札、野帳といった小物や測量に用いる平板やレベルを配置し臨場感を出しました。さらにローリングタワーにのぼりウィスターから遺構を見る能够ができるように工夫をしました。

出土品展示の工夫

展示は、意外な施設の下にあつた遺跡をクローズアップする方法で行いました。例えば、夏場の県民憩いの場である太閤山ランドプール広場には上野赤坂A遺跡があり、古代には製鉄が行われていました。すると、子どもたちは「ここに行つたことがある」という風に答えるなど、双方向でのやりとりができ、対話型の解説となりました。遺跡の紹介も、通常のような時代別や地域別ではなく、公園・学校・ほ場整備・道路・新幹線といったより身近な施設の順に展示を行いました。公園では、太閤山ランドプール広場（上野赤坂A遺跡）・県総合運動公園陸上競技場（南中田D遺

跡）・とやま健康パーク（任海宮田遺跡）、学校では富山国際大学グラウンド（東黒牧上野遺跡A地点）というように行ったことがあるかもしれない施設を中心に展示しました。

コーナーを違えてマニアックに40年間の調査成果でどのようなことが明らかとなったのかを中心に遺跡別に展示を行いました。取り上げた遺跡にはウワダイラ遺跡（旧石器時代）、境A遺跡（縄文時代）、江上A遺跡（弥生時代）、北高木遺跡（奈良時代）、開酵大滝遺跡ほか（室町時代）などを取り上げ、調査で何が明らかとなったかなどを展示しました。さらに遺跡調査にあたった文化財保護主事OBが記憶に残った調査遺跡を挙げました。遺物だけでなく、当時のカメラやフロッピーディスクなどの器材を展示するもので好評です。

往時の遺跡調査をスライドで

ロビーでは、かつての遺跡調査についてもスライドで紹介しています。100遺跡をノミネートし約20分程度のスライドを電子黒板で投影しました。この中には埋蔵文化財センター設置以前の社会教育課・文化課時代の調査も含まれており、当時を知る関係者などからは懐かしい風景だなどとの感想が出されました。また昭和44年度から平成28年度までに刊行した報告書も陳列し、実際に手に取って読むことができるようになっています。

次の10年間に向けて

全国的にも県内の発掘調査は減少傾向にあります。埋蔵文化財センターの次の役割は、発掘調査で出土した資料の評価が重要な役割になると考えられます。これまでのセンターは主に調査が主体でしたが、出土品の価値を明確にするのも今後果たすべき役割と考えています。このほか現在行っている出前授業や出張埋文センター事業などをより充実させながら一般にもわかりやすい普及活動を図っていきます。

（高橋 真実）

